

第33回(8/24)、第34回(9/26) 国際連携WGでの議論要旨

説明概要	<u>社会受容性の醸成－メディア懇談会・市民ダイアローグの開催結果</u> ・ 11月1日(火)に開催し、17媒体24名、市民24名の参加があった。 ・ 企画および当日の進行は、清水和夫構成員および岩貞るみこ構成員に全面協力いただき、議論の内容はインターネットを通じて発信した。 ・ 第1回として、学生を中心として2030年を想定した未来社会におけるモビリティについて議論し、自動走行システムの実用化の方向性についてバックキャストすることとした。参加者からは、自動運転の技術や課題に加えて、移動することの価値など幅広い発言があった。 ・ 第2回は、業務及び個人の自動車ユーザーに参加頂き 1月17日に開催する。第3回は 2月21日に予定。 <u>国際会議の開催 - 3rd SIP-adus Workshop (11/15-11/17) の開催結果</u> ・ 11ヶ国50名を含む425名が参加。国際連携戦略6テーマ(Dynamic Map、Connected Vehicles、Human Factors、Security、Impact Assessment、Next Generation Transport)に加えて大規模実証実験・各国プロジェクトおよびSIP-adus施策報告のセッションを設けた。 ・ 公開の全体会議では自動走行に関する世界の最新動向を共有し、分科会では、招待者のみが専門性の高い高密度な議論を行った。 ・ 国際連携窓口の各担当による、国内外の会議や電話会議を通じた議論のリードと周到な準備が海外の参加者から評価された。
WGでの主な議論	<u>市民ダイアローグ</u> ・ 今回の参加者は、関連知識が豊富で議論に積極的な学生だったので、価値観などに関する興味深い議論があった一方、東京の学生は自動車の運転機会が少なく、自動走行そのものの議論に進展しなかった。 ・ 次回は、自動車ユーザーの視点で議論を進めるが、将来像と具体論のどのあたりを論点に進めるか明確にして参加者への周知が必要。 <u>SIP-adus Workshop</u> ・ 技術開発が進み、各地での実証実験など自動走行の実用化に向けた動きが加速している。ダイナミックマップなどの基盤整備、制度面での課題解決、標準化や基準作りなど議論の対象が拡大している。 ・ 各国政府も制度面などでの自動走行実用化推進に積極的である。 ・ 大規模実証実験概要の発表への反響は大きく、海外からの参加意思表明や相互主義に基づく成果の共有の提案があった。 ・ 欧州でも来年から定例国際会議開催(第1回2017年4月3-4日)が計画されており、積極的に参加し共通の関心テーマの議論を深めることが必要。